# 嬉泉の新聞

嬉泉の新聞 第65号 2010年（平成22年）2月発行
発行所＝社会福祉法人嬉泉
東京都世田谷区船橋1－30－9（〒156-0055） TEL 03-3426-2323
http://www.kisenfukushi.com E-mail:kisen@kisenfukushi.com
発行人＝石井哲夫　　編集人＝樋口 美津子

## 私の経験した発達障害の治療の諸断面

ねりま発達クリニック院長
（ＮＰＯ発達障害児・者対策推進会議理事長）
成瀬　浩

私は、若い時に脳の生化学的研究を行ってきた関係で、小児精神医学分野では、

1．早期治療可能な代謝異常症・内分泌異常症の発生予防の仕事。
2．発達障害児に対する薬物療法の研究。

をして来ました。　後者の仕事としては、１９６０年代後半に、現在の日本自閉症協会副会長山崎晃資先生、中根允文長崎大学精神科名誉教授、故武貞昌志先生（当時の大阪小児保健センター長）などと、小児行動評価研究会を結成しました。我々は、小児に対する安定剤で、特に、小児の身体発達にマイナスにならないものを作ることを目指して研究してきました。

小児内分泌の専門家の協力で、小さい子どもに使っても内分泌代謝系には有害な影響は無い薬品、「オーラップ」を開発したのも印象に残ります。

また、自閉症脳の特定の代謝系の特定の変化を見つけ出し、その代謝変化を良くする薬物として、ＢＨ４を見出したのも大事な仕事でした。（この研究は、途中で、経済的な障害のために中断しましたが、まだ、一部の薬学者の方々が実用化を目指して研究を続けております。）

１９８０年代後半から多数の自閉症の方々の外来での治療を担当しました。初めは問題行動がひどい方が多かったと思いますが、問題行動は大半の方々は改善されました。それで、知的障害の強くない方々は、お近くの医師に紹介させて頂き、知的障害を伴う方々には、私が外来で担当しました。

こうして、幼児期から治療担当した方々は、養護学校に入学された方が多いのです

が、それでも障害者就労をした方が多く、中には色々な小企業に雇われた方もありました。知的障害の重い方々は作業所などに通い、落ち着いた生活を送っています。治療の内容は、症状により色々でした。多くの家族で、母親は、「自閉症の子どもが、一番良く自分を助けてくれる」と言われることが多いです。

外来の治療以外も経験しました。昭和48年国立精神衛生研究所の精神薄弱部長だった時に、練馬区で、日本で初めて、医学が中心的な役割りを持つ精神的な発達障害の方のための地域ケアーセンターを作るという案がでました。この重要さに共鳴して、その設立委員会委員長としてお手伝いをし、中村橋福祉ケアーセンターが発足しました。私も、１９８８～２００１年、非常勤の中村橋福祉ケアーセンター長として地域ケアーの実践の勉強もさせて頂きました。非常に良い勉強でした。

こんな活動をしているうちに、多くの自閉症児の方々は、「障害児の専門の臨床心理士・保育士」にお願いして、１歳半健診直後ぐらいから（或いはもっと早く）親と子ども一緒の療育を行っていただくことが非常に有効だと言うことに気が付きました。「この早期の親子一緒の療育に重要性を証明すること」を最重点目標として、2005年8月にクリニックを開設し１０人余の仲間と活動して居ります。そして初期親子療育により、親の苦しみを和らげ、子どもの症状を軽く出来ることを味わっております。

ただ、もっと大きくなった自閉症の子どもで問題行動を示すケースについての学校や家族からの治療依頼が増えております。多くの環境的な原因から問題行動を示す4−5歳以上の子どもに対しては、療育だけでは効果が無い様です。問題行動を改善する為には、適切な薬物療法で、ご本人のイライラを和らげながら、その子の家族、或いはその子を助けている人達への援助が必要です。

自閉症の方々は、今の医学研究では、脳の神経伝達物質の変化があり、「いらいら中枢の興奮」が基礎研究者により認められております。この様な現象に対しては、精神的な働きかけと同時に、適切な薬物使用が不可欠なことを、関係する方々に理解して欲しいと思います。ある論文に、薬物ではこの病気を直せないから、薬物使用は不必要と言う記述がありましたが、私は、この考え方は、患者にとり、全くマイナスと成る考え方だと思います。　自閉症は、家族の協力があれば、薬物も含めた多面的な対策で、症状が改善される病気です。

# 社会福祉援助論

石井　哲夫

－ その28 －

## 社会福祉最前線からの訴え　その四
## ーマニュアル文化の行きつくところー

自分が代表している研究班の研究申請を出して、専門委員会からの評価が悪く採用されないことがあった。その評価内容に「学術的には高く評価するが、普遍性が問題であり、且つ費用がかかりすぎる。」などというように書かれていた。長年研究生活をしていて、分からない時代を迎えたと思っている。今、実践的研究は、マニュアル化していることや、何らかの普及できる内容をもっていることが求められている。事実それらの研究と称する成果物を見ると唖然としてしまう。良い紙にきれいな色彩で、わかりやすいレイアウトのマニュアルとなっている。一見して、こんなことまで書かなければならないかというように丁寧に工夫された文言を図式して示している。或る研究者は、これは会社に頼んで作ってもらっているもので、その道のプロのものだという。その道のプロというものが存在していることも考えてみれば不思議なことで、本当に研究者は何をしているというものであろうか。自然科学の研究者はわかりやすい研究をしていてなるほどと思われる即物性を感じさせられる。しかし人間の発達や心理的な変化を求めるという研究は、何よりも実地な状況での柔軟な対応が必要であって、或る一部分を切り取って変化させて、これで何が価値があるというものであろうか。

かねがね独り言を言うように自分の実践を基にした考えを述べていると、「あの人は哲学的だ」とか「思弁的だ」と切り捨てられてしまう。「受容」などという概念を振りかざしていると見られているが、「受容されない人」の深刻な状況を知るだけに、この概念から離れるわけにはいかないなどと言いながら、いろいろな文献を見ていて、私の心境にぴったりのものが現れた。これをEM（Enactive mind）理論という。その一部を紹介しておく。

「対人スキルのトレーニング法を含めた、いくつかの利用可能な教育方略の重要な限界の一つは、スキルの汎化の達成が困難なことである。EM理論では、子どもは、『対人的世界を能動化して知覚する』つまり、対人活動にとって直ちに重要なものによって、その世界を選択的に知覚し、一方その個別化された対人世界の心的表象は、そのように知覚的に導かれた活動の結果生起する経験を繰り返すことで生じる。こうすることで、周囲環境は、対人活動へ関連した知覚へと還元する。対人適応のためのツールは、対人活動の履歴として深く埋め込まれている。」

行動分析理論などで主張している行動のスキル理論もこのよ

うに明快に否定されるとなると、大問題と感じるであろう。これを取り上げようとしている発生論的行動認知学説は、その基盤に綿密な実験を重ねている。

最近読んだ本からコントロール型の思考と、ネット型の思考という概念分類があることを知って、これから連想することが多かったので、このことも書き添えておく。コントロール型思考とは、人に対してその言動を如何に此方の求める行動やフレーム(行動の枠)に一致するように相手の行動をコントロールしていくことであり、ネット型思考とは、相手の情緒や認知を思い測りながら、その人との結びつき(絆)を大事にしていくことである。つまりコントロールとは、ほめたり叱ったり、賞罰を与えて、「相手の行動を変えるために、此方に向かせて、此方の意志や感情を伝える」ということに重きを置くことで、教育や子育てによく見受けられることである。障害のある人に対しても同様に多くの効果が上がるように務める方法論に重きを置くことに繋がる。それにひきかえ、ネット型の思考では、教育や子育てでは「相手の状態に合わせて此方の状況を整えたり、相手に合うような指導の仕方や人を選ぶ」ことになる。

さてこのような思考を続けていくと、コントロール型のマニュアル文化で世に貢献していると思っている人はどう答えてくれるものであろうか。

# お知らせ

**【アトリエ・アウトスより】**

今年度はみずほ銀行の銀座中央店のウインドディスプレイ空間(銀座目抜き通り)において、アトリエ・アウトスの作品を展示してきました。この企画は、みずほ銀行よりお話いただき、法人と契約を交わしたものですが、引き続き4月からも契約を致しました。期間中、作家・作品を変えて展示されます。

お近くにお出での際は皆様、是非ご覧下さい。

**【世界自閉症啓発デー】**

4月2日は、世界自閉症啓発デーです。当日、シンポジウムが開催されます。

日時　平成22年4月2日(金)
場所　国連大学
東京都渋谷区神宮前
5－53－70

主催　厚生労働省
日本自閉症協会

共催　日本発達障害ネットワーク
日本自閉症スペクトラム学会
全国自閉症者施設協議会
国立特別支援教育総合研究所
発達障害者支援センター
全国連絡協議会

＊詳しくは世界自閉症啓発デー日本実行委員会公式サイトをご覧下さい

# 私たちのしごと　世田谷からの発信

## 「すこやか園分園開設一年の歩み」
### ―子どもはゆっくり育てたい―

今井　明代

二〇〇八年四月一日、砧二丁目のガーデニアール砧レジデンスの一階に分園がオープンしました。

世田谷区の待機児童が大変多い状況の中で、区からの委託を受け二五名定員（二歳八名・四歳八名・五歳九名）でスタートしました。

千歳船橋駅と祖師谷大蔵駅から約徒歩十分の大きなマンションの一階です。入園した十七人の子どもたちが、「すこやか園分園」のスタートと同時に「風の子」の仲間入りをしました。

園長である私も、すこやか園に就任一年目で、四名の保育担当者と分園の十七人の友達とともに「はじめまして、どうぞよろしく」というごあいさつから始まりました、入園式の翌日からは、「上を下への大さわぎ」でした。食事はどこでたべるのか…「保育園のはじめの一歩」は〇からのスタートで忙しく、毎日が新鮮でした。

私が保育で大切に考えていたことがいくつかあります。個々の性格を早く理解して、その子の好い面に着目して伸ばしていくことです。保育の枠組みは気にせずに、一人の人間として大切に思う事は、保育するものが持つべき基本姿勢だと肝に銘じています。

また、庭が無いのは子どもの暮らしにとって「大きなマイナス点」です。晴れた日には近くの公園に出かけます。往復の道のりは交通ルールを学ぶばかりではなく、近隣の商店や人々の暮らしに触れる機会でもあります。坂道や階段、ジグザグでこぼこみちは子どもの身のこなしの経験を豊かに作ってくれます。小さな雑草や木々の緑の変化に気づいて寄り道をする「散歩」は知らず知らずのうちに子どもの感性を育んでくれる貴重なひと時です。

さらに、子どもの居心地の良い空間づくりに工夫を凝らしました。自然の木の香りがする家具や、子どもの成長発達にとって欠かせない遊具類を厳選しています。保育士が作った室内環境は「やわらかな刺激」となって生活を彩ります。

子どもたちが遊ぶおもちゃは「大切な宝物」。カプラやレンガ積み木・ネフスピールやレインボウブリッジは子どもたちが大好きです。カラフルなおはじきやお手玉、ままごとセットも好きです。今年は菊地分園長が沖縄から取り寄せた「白い砂」で砂団子作りも大好きです。

子どもたちの会話がはずみます。「夢を形にして」成就感がたっぷり持てます。大きくなったら建築デザイナーになりそうな素敵な空間づくりに熱中。「明日また続きを造ろうね」と、お友達と約束して名残惜しげに帰ります。この遊びの連続が友達関係を育みます。

幼児期の遊びはそのものが「学習」です、ひとりひとりの思いを言葉に出し「聴く」「伝える」という質の良いコミュニケーションの連続を作っていきます。異年齢混合クラスの子どもたちの生活は、時にはぶつかって悲しい思いを体験することもあります。「自分の思い」を尊重してもらった子はその思いをくぐってこそ、自分以外の様々な人の思いがあることも理解します。そこから自己肯定が育ち人を思いやる感性が育っていきます。

三月には分園初の三人の卒園児を送り、仲良くなった本園の友達と一緒に合奏も楽しみました。四月には新たに菊地分園長と三歳児九人を迎えて、園児も増えました。すこやか園は一斉保育ではない、自由な中にも秩序が育つ保育をこれまでも展開してきました。自主性を重んじる保育の展開は石井先生の保育の思想の根幹をなすものです。「嬉泉」の理念を、目に見えにくいところでもしっかりと実践する保育は、一見無秩序に見えますが、専門家の目には「未来への力の蓄え」が見えてきます。子ども期は「大人への準備期」ではありません。「今するべき遊び」「今甘えたい気持ち」を大切にしてもらった子が、大人への信頼感を育て、将来大人としてわきまえたり順番や秩序、社会の仕組みを理解していきます。

日本の乳幼児教育・保育では古くから就学の準備期として誤った方法がとられ、「みんな一緒に」と大人の枠組みに子どもを入れてきました。しかし、近年、子どもを早期から「一斉の保育の枠組みにいれる」弊害が認識されてきました。無理な環境を強いられるとストレスを感じてイライラしたりできないとオドオドして自信が育ちません。幼児期には幼児に適した生活の仕方があります。「自分の思い」があります。自主性を発揮する場をきちんと保障して受けとめることでしっかり育ちます。

すこやかの保育の基本理念を大切に、子どもが生き生きのびのびするよう、安心して個性が発揮できる雰囲気をつくり、「安心とゆとり」の分園二年目の保育を展開しています。

（すこやか園　園長）

## ◆平成19・20年度 社会福祉法人 嬉泉 寄付者名簿

（敬称略・順不同）

・茂木勝衛・菅原収三・工藤正路
・原京子・澤井一郎・山田美和子
・小林美津江・山口敏・賀戸文彦
・田中瑛也・舘靖子・浜ノ園利夫
・村岡精一・半田久倫・小川照子
・山岸道子・村田保太郎・吉原貞
・田中吉男・佐藤一雄・岸本仙松
・古知朝彦・井指正雄・追川喜信
・田村聰遙・野田康生・平野保雄
・村田堅一・時永康男・山城清子
・村岡潤子・伊藤和子・大村光弘
・工藤邦英・大塚千秋・高田昇一
・土谷新・納土郁子・小原ナツ子
・増江義彦・飯田真奈子・田村匡
・山岸陽子・木村珠江・下田明彦
・黒林美江・野田順子・早瀬進
・齋藤穂・山中勝子・橘本まち子
・田中礼子・寛司和廣・盛川輝久
・井出正代・内田利恵・吉賀敏郎
・小浅文彦・楠峰光・二木俊彦
・荒井恒夫・片桐一平・ひかりのと兵に歩む会・竹内昭子・板垣次男
・志賀敏郎・工藤成一・真仁田昭
・株式会社立石建設・花みずき
・社会福祉法人大樹の会
・社会福祉法人高原福祉会村山中藤保育園・瑞穂技術工業
・けやき台さくら保育園
・赤塚六丁目自治会・米のたむら
・タカハシ金型サービス
・めばえ学園保護者有志
・東京都共同募金会
・千葉県共同募金会袖ヶ浦市支会
・NHK歳末たすけあい義捐会
・北沢優申会・嬉泉後援会
・世田谷区民生児童委員協議会松沢地区・巣鴨ときわ協会
・世田谷区民生委員協議会松沢地区
・株式会社マイカル板橋サティ
・袖ヶ浦市社会福祉協議会
・ひかりの学園父母一同
・のびろ学園保護者・協力者一同

＊その他、法人40周年記念式典の際には、多くの方からご寄付いただきました。

（平成19年4月～平成21年3月）

以上の皆様に厚く御礼申し上げます。

理事長他役員一同

# 私たちのしごと　赤塚からの発信

## 「スワンタッチをご存知ですか？」

斉藤　敦子

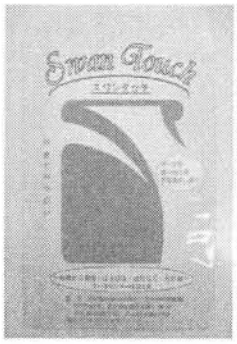
ワークセンターはばたきでは、昨年度から板橋製品技術大賞を受賞したアイディア商品「赤塚スワンタッチ」（ページをめくっても、つねに白鳥の口ばしが追いかけてきて、今読んでいるページを教えてくれる挟みかえ不要のしおり）の販売をはじめました。

6年前から、ご近所の「高橋金型サービス」さんから受注を受け、一手に製作を引き受けてきましたが、社長の高橋さんが、利用者の皆さんの丁寧な仕事ぶり、一生懸命仕事に向かう姿勢に感銘し、今年から特許権を無償で使わせていただけることになったのです。自分達で作った製品を自分達の手で販売できるという夢のような展開！その話題がテレビや、読売、朝日、毎日などの新聞でも紹介されたことで、沖縄からも注文が・・。工賃もかなりアップし、仕事に対するモチベーションがあがり、手ごたえ、達成感を感じている今日この頃です。

そして、自分達で販売先を開拓するため、営業を開始しました。猛暑の中、地域の本屋さん、文房具店、小・中学校、図書館など、自分達の足でたくさん歩きました。断わられることの方が多かったのですが、逆にそれが社会の厳しさを知る機会となったり、扱ってもらえるところができた時は、それはもう「やったぁ」とうれしさ倍増。工賃アップはもとより、皆さんにとって何が一番良かったことかというと、営業を通じてどんどん地域に出ていく機会が増えたことです。ややもすると恐がられたりなど、誤解を受けやすい方々ですが、この仕事を通じて地域とのつながり、交流が増え、地域の方の障害者への理解も深まる機会になっていると感じています。

これからも「赤塚スワンタッチ」を全国展開できるよう頑張ってやっていきたいと思っています。

（ワークセンターはばたき職員）




## 「地域でのアルミ缶リサイクル活動」の取り組み

岡安　英明

デイセンターきららでは、アルミ缶のリサイクル活動の一環として、アルミ缶回収・選別・プレスとそれぞれの作業に取り組んできています。特に、アルミ缶回収では、回収に協力して頂いている近隣の商店、個人宅、赤塚体育館などの公共施設、家族の知人・友人など、赤塚福祉園を中心とし様々な方の協力のもと活動を展開しています。その缶回収を通して地域の人にあいさつをしたり、されたりしながら、地域との交流が次第に深まってきたと言えます。

地域でのアルミ缶回収活動の展開も、回収率がアップして来るに従い、その実績が認められてアルミ缶リサイクル協会というところから表彰されるまでになりました。

利用者にとってもアルミ缶のリサイクル活動が給料になるということを理解していることから、利用者は意欲的に活動に取り組めています。

アルミ缶のプレス作業では、利用者の個々に合った方法で取り組んでいます。そのプレス機も手動と電動があり、バケツに紐を取り付けて引っ張り入れるなどの工夫をしているグループもあります。

昨年度より、新たに缶回収作業から缶プレス作業までの流れを明確にした新システムの構築と、アルミ缶単価を見直すため、回収業者の新規開拓という二つの展開が試みられることになりました。今後も地域活動としてのアルミ缶リサイクル活動を、よりいっそう推進していくための支援の方策を考えていきたいと思います。

（デイセンターきらら職員）

# 私たちのしごと　袖ケ浦からの発信

## 「こころグループの支援を通して」

宇治原　誠

袖ヶ浦ひかりの学園こころグループでは、男性13名、女性12名、合計25名の利用者さんが在籍しています。その他、「グループホーム春のひかり」のバックアップや、その日によって、日中一時支援を利用者されている方も数名います。

活動は、午前と午後、主に作業を行なっています。袖ヶ浦ひかりの学園では、利用者さんの特性や主体性を尊重し、選択的作業を行っています。こころグループの利用者さんは、本人の希望や長所などを活かし、芸術活動を行なうアウトス、パン工房、菓子部、販売作業、パンの配達、軽作業などに参加されています。パン工房で作業されている方の中には、朝の7時過ぎから自分で出勤されている方がいたり、パン配達の仕事を任されている方は、昼食を終えると自らパン工房へ行きパンを受け取って配達に向かう様子など、自分の仕事への責任感や主体性が見られています。長年培ってきた経験が自信になり責任感が生まれてきているのではないかと思います。「継続は力なり。」という私の好きな言葉が頭に浮かびます。

余暇時間などは、居室でテレビを観ている方や、デイルームのソファで寛いでいる方、職員と一緒にインターネットなどを楽しんでいる方など様々です。それぞれ、ある程度決まった自分の居場所や生活スタイルの中で、支援員と交流しながら穏やかに過ごされています。しかし、周囲の状況やその方の状態によっては、自傷行為やパニックが見られたりする事もあります。時には、他害行為が予測される場面もあり、限られた支援員の中で、緊張感を持ちながら支援をしています。様々な出来事が起こり、忙しく追われる日々ではありますが、その中で、利用者さんの笑顔を見たり、心が通じ合えた瞬間の喜びなどが、私達の力の源泉となっているように思います。今後とも、保護者の皆様方のご協力を賜りながら、利用者の皆さんが、ひかりの学園で自分らしく、楽しく豊かな生活を送れるように、精一杯取り組んでいきたいと思います。宜しくお願い致します。

（ひかりの学園支援員）

## 「朝の食卓」

森　岳之

私の所属する袖ケ浦のびろ学園さざんか・はやてグループには、18名の利用者さんが在籍しています。うち中学生・高校生は12名と半数を超えており、起床から登校までの時間帯は、一日のスケジュールの中でも特に慌しい空気が流れます。

7時起床。眠い目をこすりながら、徐々に着替えを始めます。その後、整髪・髭剃り・歯磨き・洗面などを、支援員の見守りや声掛け、介助などを受けながら行います。身辺自立の観点からじっくりと向き合いたい場面でありますが、そうこうしているうちに食堂には食函車が到着します。

目についた食事に強行して向かっていってしまう方、思いの相違などにより激しい自傷・他害などに及んでしまう方、食事を投げてしまう方、強い偏食傾向の方…などなど、それぞれ支援の程度や内容の異なる方が一斉に食事をします。加えて高校生は日によって20分少々で登校バスに乗らなければなりません。食堂内は、急に団体客を迎えた中華料理店の厨房のような様相を呈してきます。

ある日のこと、ひとりの利用者さんが何かを訴えています。聞き取れなかった私は耳を澄まし聞き返してみると…それは「ありがとう」という言葉でした。初めてのケースに驚き面食らいながらも、喜びと感動を覚えました。せわしなく動き回る朝の食卓にも、小さな発見や、利用者さんとの信頼関係を感じる瞬間があります。私たちが子どもの頃、学校へと送り出す母親の気持ちはこういったものだったのでしょうか。

（のびろ学園支援員）

# 嬉泉トピックス

**平成21年4月から始まった社会福祉法人嬉泉の新規事業も、早いものでもうすぐ一年になろうとしています。**

**【世田谷区発達障害相談・療育センター　げんき】**

世田谷区の業務委託を受けて4月より開設されました。国立成育医療センターの敷地内、世田谷通り沿いにあります。

＊対象は世田谷区在住の発達障害やその疑いがある方とそのご家族、関係者を対象に相談、療育を実施しています。（療育は、18歳未満の児童を対象とします。）

＊所在地　世田谷区大蔵2―10―18　大蔵2丁目複合型子ども支援センター2、3階

＊開所日時　月曜～土曜（祝日及び年末年始を除く）午前9時～午後6時

＊電話03―5727―2235

**【子育てステーション烏山　発達相談室】**

平成20年9月1日より世田谷区の業務委託を受けて開設されました。4月からは「世田谷区発達障害相談・療育センター」のブランチとして、本格的に始動しています。場所は、京王線千歳烏山駅徒歩1分にある駅前子育てステーションの中です。子育てステーションとは世田谷区が設置を進めている多機能型子育て支援施設です。1階おでかけひろば、2階認証保育園、3階一時保育、病（後）児施設、4階が発達相談室です。

＊対象は世田谷区在住の発達障害やその疑いのあるお子さん（18歳未満）とそのご家庭、関係者を対象に相談、療育を実施しています。

住所：世田谷区南烏山5―17―5

電話：03・5384・7811

予約制：受付時間は、月～土曜日（祝祭日除く）の9時～5時です。

**【子育てステーション成城　発達相談室】**

4月より開設しました。

住所：世田谷区成城6―5―34成城コルティ3階

毎月第2・3木曜日の午後1時～5時相談のみ実施しています。**ご質問、お問い合わせは烏山相談室までご連絡下さい。**

**【清瀬市子どもの発達支援・交流センター　ととこと】**

4月より、指定管理者の指定を受け、運営を行っています。

＊対象　清瀬市在住の御本人やお子さんの発達に不安を持つご家族と関係者を対象に、相談・療育支援を実施しています。

＊清瀬市竹丘1―15―8

＊電話042―495―3030

＊予約制　受け時間

月・火・木・金曜日

午前9時半～午後5時

**合わせて、**

**【子育てステーション桜新町　発達相談室】**

**【子育てステーション梅丘　発達相談室】**

が、世田谷区の業務委託を受けて、平成22年4月1日より、開設されます。子育てステーション烏山・成城発達相談室と同じように、世田谷区発達障害相談・療育センターのブランチとして始動していきます。

**【アトリエ・アウトスより】**

社会福祉法人嬉泉は、2年前に株式会社ウインドミル様より、アトリエ・アウトスのデザインでエコバックを製作し、カタログギフトで販売をするというお話を受けました。このお話は、アトリエアウトスの作品を高く評価して下さり、また、その売りあげの一部を、法人及び作家本人に還元されるという社会貢献のシステムを取り入れた企画です。現在も引き続きウインドミル様の開拓によって、多くの企業のギフトカタログに掲載されております。

北日本物産株式会社様

株式会社三喜様

協同組合ギフト用品卸販売

21世紀　様

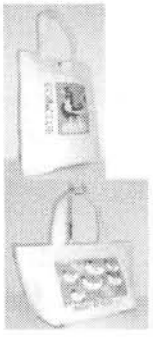
株式会社ハリカ様

株式会社ワイ・ヨット様

株式会社ロワール様

＊問い合わせは法人本部まで

03・3426・2323



# ひかりのタイムス

独立第56号

## 「フォートでがんばっていること」

伊藤　訓育

フォートは毎週火曜日から金曜日の午後1時から、4時30分までやっています。

職員は山田富美江さんと小川りえこさんが、おります。利用者は、伊藤訓育、Kさん、Sさんです。

ぼくはケーキの作業しています。お客さんもよろこばしいです。

ひかりの学園は一昨年こころ棟ができ、昨年地デジのテレビを購入しました、アンテナも追加しました。

これまでパン工房は午前中、FORTは午前と基本線です、毎月労働かんげん金前後に外食があります。山田さんが運転で、伊藤訓育、Kさん、Sさんで構成です。

FORTは伊藤訓育はケーキを担当し、Kさんと、Sさんはクッキーづくりの担当です。

ぼくは朝パン工房で、午後FORTで基本的です、ビエラも発ばい元は、松〇電器が10月から、パ〇ソ〇ックと社名が変更される予定です。

利用者ぼく、Yさん、Kさん、Tさんはビエラです。

来年4月から職員の再編どうなるか、わかりません。

ともだち、Tさんは、Oさんもいます。

（ご本人の了解を得て文章を編集しました。）

（柚ケ浦ひかりの学園利用者）

## 『グループホーム10年回顧』

山岸　裕

1999年1月の曇りの日、私は学園から引っ越して、グループホームに入居した。

最初は生活費の負担にびっくりした記憶がある。

当時は大手スーパーで仕事していたので、家事と仕事をやるのに大変だった記憶がある。

入居者のA子さん、Bさん、Cさんとは交流がないので、最初はびっくりした。

仕事をしていたとき、ジョブコーチに不満と悩みを打ち明けようとしたときがあったが、ジョブコーチの「今、仕事中」の一言で、仕事の悩みや、不満を言う機会は永遠に失われた。

それが遠因となって、ジョブの説得もむなしく私は退職した。当時のグループホームリーダーのすすめでパソコンを買い新たな世界が広がった。ある掲示板で人の悪口（生きている人も多いので特に具体例はあげない）を書いて管理人からメールでご叱責を賜って、私も反省して、今は掲示板で書いていいこと、いけないことを区別して書いている。

平行して私は日記を書くようになった。120冊を越える内容である。内容はグループホームのこと、趣味の山のこと、映画の感想いろいろエトセトラである。

2003年から参加した発達障がい支援センターの聞き取り調査に行き、当事者の話を聞いたり、自分の意見を言うようになった。

当事者の話が出たので他のグループホーム入居者の話に移ろう。みなさん職場の解雇・地域のトラブルいろいろあったが、乗り越えて、地域の生活で人生経験を積みそれなりに年を重ねた。

10年かかって私は彼ら、彼女らの行動を理解した。人が人を理解するのは難しい。

これからどうなるのだろう??私達も、50代を迎えてそれなりの年齢になる。高齢の親も死ぬ。先の事はわからない。予測が立たない。

ただ10年前、グループホームを立ち上げた頃、年2回の大掃除、年1回の旅行に行く。町内会の加入するとは夢にも思わなかった。

私を含めて、みんながそれなりに経験を重ねて、中年として緩やかに、なだらかに歩む。山にたとえると八ヶ岳型成長をするとは想像できなかった。

人生何が起きるかわからない。それがグループホームで学んだ事である。

（グループホーム春のひかり住人）